

しんとそうかい むか
信徒総会を迎えるに当たり

—「主イエス・キリストの共同体」(小教区)に対する意識を高めよ—



●6月5日行橋と豊津で年に一度の信徒総会が開かれます。その「総会」を皆さんはどのように考え、理解されているでしょうか。—私は共同体の信仰の歩みと生活において「総会」が非常に重要な意味をもっている一時と場であると思います。—それは様々な報告がされた上で、必要とする修正が行われ、「主イエス・キリストの共同体」としての歩みがともに確認され、共同体の方向付けが新たに認識されるからです。

*皆さんもご存知のように信徒代表を始め、評議会のメンバーは「長」ではありません。評議会は全権を握り、教会を牛耳っている運営組織とは違います。「長」でも「役人」でもない評議員は司祭と共に、司祭と同じように主イエス・キリストの「しもべ」として働き、イエスの共同体(小教区)がますますイエスの共同体に相応しく

成長するように仕え、奉仕するものです。「それは理想に過ぎない」とあざ笑う人がいるかもしれませんがその理想を目指し、その理想に近づくことをあきらめれば、福音の「光」も「塩」も消え、「カトリック」として残るのは聖堂の前に立っている看板だけで、教会は「主イエス・キリストの共同体」ではなく、イエスの名を借りている宗教団体の一つになってしまいかねません。

この場を借りて、行橋・豊津共同体の評議員の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。評議員の皆さんは常に共同体のことを考え、長い時間をかけて、献身的に共同体に仕えておられることを証明させていただきたいと思います。

偏にご家族の理解、協力や犠牲がなければ、評議員の皆さんは委ねられた使命を果たすことができないことを共同体の皆さんから新たに認めていただければ幸いです。私は評議員の一人ひとりに心から感謝いたします。

*信徒代表を始め、皆さんから選ばれた評議員は定期的集まり、行橋・豊津の共同体は地域社会の中で「主イエス・キリストの共同体」に相応しく「光」と「塩」として生きることができるよう様々な計画を立てています。—しかしそれに当たって、いくら気を配ったとしても、皆さんの声がいずれも正確に届き、意見が確実に吸い上げられ、皆さんの期待が十分に反映されてい

るとは限りません。—だから「総会」に参加することは大切なことだと思います。

●福音に照らされて判断し、信頼のうちに意見を交換し、アイデアを分かち合い、心と力を合わせることによって共にイエスの真の共同体を目指し、築き上げることができるようになると思います。—もちろん感情の影響、相性と人間関係の問題、こだわり、遠慮、関心の度合いの違いなどのために「総会」の運び方は、時には難しくなり得るのですが、互いに理解しあい、ゆずり合い、赦し合う精神を自分のうちに

養うように心がければ、穏やかに、思いやりをもって聞き合い、討議することができるはずで

す。私たちは主イエス・キリストによって「兄弟」とされた者ではないでしょうか。—使徒言行録を始め、パウロの手紙などを読むと分かるように、初代教会の中でも度々「激しい意見の対立と論争が生じ」（使15:1）「兄弟喧嘩」が起

っていました。しかし共に聖霊の導きを祈り求め、その導きに従うことによって、イエスによって遣わされた教会の前で新しい道が開かれ、それは思いがけない発展につながりました。そのことから学ぶようにすれば、私たちの小さな共同体のレベルでも、同じことを期待することができるのではないのでしょうか。

●共同体の方向付けや生活は私たち一人ひとりの問題と責任です。「任せる」ことだけでは不十分だと思います。話し合い、分かち合い、そして共に検討した上で必要とすることを決めることは、大いに望ましいことです。不協和音を恐れてい

れば、「総会」は形式的な形で終わります。しかしそうなれば私たちの共同体の歩みにおいて認識が高まること、求められている変化を期待することはできるのでしょうか。共同体の成長が可能になるのでしょうか。イエスの共同体として生きているか。
*様々な違いを踏まえて、イエスのうちに一致を共に目指すように心がければ、私たちの共同体は豊かになり、主イエス・キリストから委ねられた使命を果たすことができるでしょう。—「今」という時において、「行橋・豊津」という「場」において私たちの共同体は、地域の人々にとって魅力を放つ「呼びかけ」となること、それに向かうステップとして「総会」に参加することは重大な意味のあることだと思います。

●「総会」に参加するために、確かに少し時間をささげなければなりません、主イエス・キリストによって呼び集められ、導かれ、遣わされている兄弟共同体の一員である以上、私たちは関心を持たずにいいのでしょうか。是非、積極的に「総会」に参加するように心がけま

